

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900063	事業の開始年月日	平成19年7月1日
		指定年月日	平成19年7月1日
法人名	特定非営利活動法人まごころケアサポート		
事業所名	こもれびの郷		
所在地	(222-0022) 神奈川県横浜市港北区篠原東1-5-20		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	15名
		宿泊定員	9名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成25年9月21日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1490900063&SVCD=730&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように社会資源の活用「民生委員、町内会、子育てサークル」等顔見知りの方々とかかわりを持つことにより安心して暮らしていただけるように努力をしている。地域の方々及びご家族の支援により共に事業所を作りあげている。地域との関係においても防災協定を締結し、災害時は互いに助け合える事を分担して災害を乗り越える様に協力体制を築いている。
年1回家族も含め全員で外出(動物園、工場見学、水族館等)も開催している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成25年10月23日	評価機関 評価決定日	平成25年11月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東急東横線の妙蓮寺駅を下車し、住宅街を10分ほど歩いた中層のマンションに隣接した一角にあります。建物は木造造り1階建てで、横浜の港町が眺望できる高台に立地しています。

<優れている点>

エントランスホールが広々とし、室内の中にも解放感があり、ゆったりした時間が流れています。ホームの理事長は地元の消防団員に入って7年になり、管理者も同様に地元に生まれ育ち、地域の民生委員の役を務めています。地域交流も積極的で、事業所の一角の部屋を地元の方やボランティアルームとして開放しています。音楽を嗜んでいた職員が作詞作曲した～木漏れ日の郷『ホームソング』～の楽譜がホールに掲示されています。ホームの理念を念頭に利用者との会話の端々にでてる言葉が歌詞にしたためられ、親しみやすいホームソングになっています。地元の高校の吹奏楽部が演奏し、利用者も一緒に歌っています。

<工夫点>

高齢者にとって食事は楽しみの一つであり、食欲をそそる工夫が欠かせないとのこと、食材の納入協力者3社がそれぞれ季節の食材を交代で納入しています。小規模多機能ホームの特徴は、一つの事業所で通いの機能や泊りの機能などができることを特徴としていますが、送迎においても決まった時間以外にも、家族の都合に合わせて柔軟に対応するなど細やかな支援をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	こもればの郷
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	地域密着サービスの意義を踏まえ理念として掲げている「安心と思いやり」「信頼される介護サービス」を提供できるように毎朝、朝礼後に唱和している。また、地域住民の方と共に安心して頂ける事業所作りを行っている。	理念をさらにわかりやすく細かく分類した基本理念10ヶ条が職員が見えやすいところに掲示されています。地域重視の姿勢を前面に打ち出しています。常に安心して過ごしていただけるようにという考えのもと、カンファレンスや職員会議を進めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域町内会行事、及び地域サークル活動の発表の場の提供等の交流を積極的に行っている。恒例行事には毎年行き来している。地域の方々にも地域の一員として受け入れられている。	地域交流の一環として「子育て支援」の方々とは異世代交流をしています。ボランティアの方々には「地域交流室」としてホール横の部屋を開放し、気軽に行き来できる所として親しまれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	老人会等で小規模多機能型介護について説明会開催や行事やサークル発表会時には利用者様と一緒に飲みを飲んで頂き積極的に認知症の人とふれあっている。また、車いす操作方法等の研修会開催を予定している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	東日本大震災以来、地域との防災について運営推進会議で課題となっている。お互いに何ができるか話し合いを重ねている。この地域では高齢化が進み町会でも今後、孤独死等の事例もあり心配している。互いに協力関係を確立する。	この1年間で4回実施しています。利用者家族代表をはじめ町内会、民生委員、地域ケアプラザの他、有識者や協力医も参加を得るなど、積極的に取り組んでいます。ここでは地域防災協定や地域との夜間訓練などが話し合われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	県・市の事業所連絡会に参加し、日々の情報収集を行っている。また、区の介護事業所連絡会にも参加している。各担当者との意見交換や判断の付かない事例等は担当者に相談をし助言を頂いている。	年に6回実施している市の事業所連絡協議会に参加しています。各事業所での事例検討など、研鑽の場として一緒に活動しています。「介護の日」に向けた市民向けの寸劇を予定して取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束研修会にて判例で現実的な事柄により職員の身体拘束についての理解を深めている。玄関の施錠はせず、職員間の声掛けや散歩等気分転換を図りながら抑圧を行わない支援を行っている。	身体拘束をしないケアを実践しています。職員研修で全職員に周知し、利用者には重要事項説明書で説明しています。利用者が一人で出て行こうとしている場合は、状況を見て職員が一緒について外に出るなどの対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修に参加するなど学ぶ機会を持っている。自宅での虐待の早期発見を行う為にお迎え時にご家族との会話等職員も見逃さない様に支援している。入浴時にもケガ、アザの発見に努めている。さらに暴言や言葉の虐待にも十分注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護、成年後見制度の学び機会として某大学の市民後見人講座の現場実習の受入れを行い実習生より成年後見制度や権利擁護について職員が学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては十分に時間をかけて行っております。契約後も不安・疑問点などを定期的に尋ねております。毎年の外部評価のアンケート結果により職員と共に検討会を開催し改善に努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や行事に参加して頂き職員との意見交換の場を多く作っている。また、家族会によりご家族様独自で連絡網の作成。運営推進会議にも家族代表として2名参加して頂き意見交換等を行っている。	運営推進会議などで要望や意見を把握しています。ショートステイの利用をする際の手荷物の確認をきちんとするために、要望に沿って「チェックリスト」を作成し活用しています。また、送迎時間の急な変更などにも柔軟に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議の開催。非常勤の意見、提案等の繁栄の為、常勤による情報の吸上げ、常勤者会議の開催等により職員の意見、提案を積極的に取り入れています。その成果として現場にあった記載書類の改善等に繋がっております。	職員から、日頃使っている「業務日誌」の形式を改善する意見があり、実施しています。年間行事においては全員参加を念頭に実行委員を設け、職員自ら考え、実施していくようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上期、下期により職員ひとりひとり話す機会を設け各自の目標や業務の悩みについて意見交換している。介護業務の重圧から休憩時間は解放されるように休憩室も現場より離れた場所に設置して気分転換の確保に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所連絡会の研修の参加及び外部研修会の情報提供により研修に積極的に参加できる環境作り及び費用面の負担を行っている。さらに外部研修により学んだ事を職員に講師となり勉強会の開催を行い復習してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	区連絡会、市連絡会等において意見交換や人事交流を積極的に図っている。今後は互いに他事業所研修を行っていく予定である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前には何度もご家族、ご本人と面会を行い、ご本人の生活状況及びご家族の思い等に耳を傾けサービス開始を行っても安心して生活頂けるように職員共に情報共有を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前にご本人様とは別にご家族様と話す機会を多く取り困難事、悩み事などに耳を傾けご本人様、ご家族様、互いにストレスなく生活ができる環境を作るように支援する。また、初期からご家族の要望係で無理な計画は立てず慣れて頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の段階で現状把握を行い、今、ご家族が何を一番必要なのかを聴きだし小規模多機能ケアで対応できるのかを判断し小規模多機能ケアが合わない場合は他のサービスを含めご家族にご案内及び紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は日々のコミュニケーションから家族関係、健康面等、利用者様の不安を受止め寄添っている。また職員会議等で情報共有を図っている。さらに調理や掃除等、ご利用者様と一緒に教えさせて頂く場を積極的に設けご本人様ができる事の喜びを感じて頂く。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	イベント等にご家族様を積極的にお誘いをしてご本人様の様子を見て頂きご家族様に利用時の様子、また自宅での様子等意見交換を多く行うように努めている。送迎時などにも積極的に情報交換に努めどこでもご自身のペースで生活できる様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日々のコミュニケーションからの情報により現在は諦めている場所の訪問や好まれている事柄の支援を積極的に行い諦めないでも支援を受けながら自分の思いを達成できる様に支援に努めている。	地域の方が面会に来たり、また気軽にお茶を飲みに来ていただくようになって、利用者喜びの顔が増えていきます。コーラスを披露していただいた方々には、「また来年も是非」という声が出ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係性を職員が理解し利用者間でトラブルが発生しない様に心がけを行っている。また、職員が積極的に会話やレクレーションを行い利用者間、及び職員との良好な関係性作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了されたご利用者様及びご家族様に積極的にイベント等のお誘いを行い色々な意見交換やアドバイスを頂く場を積極的に努めている。また、地域の方へ介護について話して頂く場を設けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりによりご本人がどのような思いを持っているか把握すると共に送迎時の家族とのかかわり等から情報収集を行い職員会議等で検討してご本人の意向に沿える支援を目指しております。	利用契約時の初回訪問の際や送迎などの家族と話す機会を利用して、本人の思いや希望することがらを聞いています。ホームではケアマネジャーを中心に、利用者の声を聴いたり思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	契約時にご家族に生活歴及び好き嫌い等が支援していくにあたり大切になる事の説明を行い積極的に情報を伝えてもらうように努め。職員においてはその情報により支援を行っていくよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録からご本人様の生活パターンを読み取りご本人様が気持ちよく生活のリズムをとれる様に支援に努めている。また、今までの情報にとらわれず状態、状況に合わせご本人の能力を最大限引出しように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様との日々のかかわりや送迎時のご家族とのかかわりにより、思いや意見を反映できるように職員会議にてアセスメントを行い身体状態の変化だけではなく心理状態による計画の見直しも即時に対応するようにしております。	日頃の申し送りやカンファレンスをして個々に計画に参加しています。「気づきシート」には本人の思いを記述し職員で共有しています。	それぞれの場面で内容の濃い仕事をされています。これらを計画→実施→評価→再アセスメントの循環を全職員に「見える化」を図り全員でケアプランを作成参加・実施されることも期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録、スタッフノート気持ちシート等、個々の変化を記録して職員会議にて今後の支援の方法、方向性を話し合っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様の希望、ご家族様のご都合に瞬時に対応できる体制を整えております。急なサービスの利用、入浴だけの利用、通院の送迎等ご要望にお応えできるように努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進委員が民生委員も兼ねている方も多くいるので地域の情報及び意見交換を頻繁に行えサービスを利用していない方の臨時受入れ等も積極的に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医院の他、利用前からのかかりつけ医院又は訪問診療を希望する方は利用後にかかりつけ医院を変更する場合もある。受診には必要があれば積極的出向き利用時の様子等を伝達し医療との情報共有を図っている。	以前からのかかりつけ医に受診している利用者も多くいますが、身体状況により柔軟に対応しています。基本的には家族同行ですが、職員も積極的に付き添いをしています。協力医院と事業所の看護師も密に連携して適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を2名配置しており、日々の健康管理や医療面の相談・助言を行っている。看護師が不在な場合は体調、些細な変化を見逃さない様に早期発見に取り組み些細な変化に気づいた時には看護師に連絡し判断をおおぎ医療につなげる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の状況把握と共に日々の情報提供等を行い早期退院に向け病院と協力を行う。さらに退院の目途がたった時点で医療機関との話し合いを設け退院後の支援方法等ご家族と共に支援方法を決定している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方については日頃から家族会、運営推進会議等で話しており、事業所のできる事、できない事の説明は行っている。さらにその段階では主治医を含めご家族の意見、意向を踏まえて支援を行っている。	本人や家族の思いを大切にしながら主治医と相談し、今後どのようにしていくか方針を示しています。家族の思いのアンケートを行い、チームとしての支援方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に急変時や事故発生時の対処法等の研修を行っている。また、消防署の協力により地域住民の方と救急救命法の指導を行ってもらっている。さらに急変時のマニュアルや緊急連絡方法も備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との防災協定締結を行い、地域主催の防災訓練の参加及び事業所防災訓練においても消防団、家庭防災員の参加を頂き訓練を実施している。消防署の協力も得て消火訓練等も行っている。	古くから地域との馴染みが深く、良好な関係が築かれ、地域防災協定を結んでいます。理事長は篠原地区の消防団のメンバーでもあり、消防署との協力関係があります。水、乾パン、缶詰、毛布等も常に備蓄しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の声掛けにおいても利用者様が恥ずかしいと思うことに関しては他の利用者様に気づかれない様に職員は声掛けを行っております。職員においては接遇や個人情報について実例で分かりやすく研修を実施しております。	職員は、利用者を敬う気持ちを持って接するよう、言葉かけ等に注意を払って対応しています。個人記録は鍵のかかる書庫に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ひとりひとり利用者様に合わせ声掛けを実施しております。意思表示や言葉にならない方には筆談等、職員が表情を読み取り支援しております。飲み物などはお茶だけではなくご本人の希望により提供しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れは決まっているが時間を区切ったり体調、気分により個々に対応しております。お昼寝、一人の時間を過ごしたい方は空いている居室を利用してご要望に応じております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人のご希望により美容室、床屋の送迎、髭、爪、着衣は職員が気を配り清潔感のある様に支援を行っている。また、職員も節度ある服装により女性の利用者ともお洒落についての話題づくりを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材に関してもワンパターンにならない様に仕入れを行い月一回は特別食で刺身等を提供している。昼食のメニュー紹介や食べたい物を聴き外食に出かける支援等も行っている。	食材は偏りがないように複数の給食業者から調達しています。市場からの直送配達による生の刺身提供もあり、利用者の楽しみとなっています。当日の献立は、食堂の入り口の看板にレストランメニューのように書かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、摂取量、水分量などを記録し、1日の栄養状態、水分量などを把握している。また、自力で摂取困難な方は主治医やご家族にと協議して高カロリー補食品を出して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、洗面所にて口腔ケアを実施している。ご自身でできない方にはガーゼやスポンジ等を利用してケアを行っている。また、歯科医により口腔ケア研修や誤嚥防止などの研修も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の記録等により個々に排泄パターンを職員が把握し、適時トイレ誘導を行っている。退院後はおむつ利用であるが適切な誘導を行いリハビリパンツ、パットを使用しない方向に支援を行っている。	排泄のパターンを職員は常に把握して、タイミングよくトイレ誘導しています。以前オムツを使用していた利用者もはずす事ができるように自立に向けた支援を適宜行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便の記録を付けており便秘防止を行っている。食材においても排便を促す食材を利用している。また、ご自身が気に入った物を持ち込む場合もある。極力薬剤による排便は避ける様に支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時にリラックスして頂けるように職員の話、雰囲気作りを大切にしております。また、入浴拒否がある方は無理はせず時間をかけて職員が代わり対応しております。急遽入浴利用にも対応しております。	入浴が楽しみで通所している利用者も多くいます。気持ちよく入れるよう季節に合わせ、菖蒲湯、柚子湯も実施しています。浴槽は両袖エプロン型で介助しやすい作りとなっており、介助クレーン設備になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転を起こさない様に支援を行っております。室温は個々利用者様の好みにより設定して睡眠できる環境作りを実施しております。また、ご自身でご自宅で利用の寝具などの持ち込もしてもらっております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーケースを整理し、職員が内容把握できる環境を作っている。薬の処方や量の変更時にはミーティングにより周知し変更後の異変の発見に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様の得意分野を把握し職員が個々にご利用者様の喜びを引出せるように生活歴等を参考にしております。お花を植えたり手作りおやつを職員と共に作ったりとご自身で作る楽しみを支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	四季を感じられるように頻繁に外出の機会を増やしております。また、年一回ご家族も含め動物園、工場など外出を行っております。歩けない方は車いすを利用したりして全員参加して頂ける体制を整えて支援しております。	気分転換できるように、散歩や外出の機会を多く設けています。山下公園の銀杏や大倉梅林等、季節を感じられる場所にも出かけています。希望によりカラオケボックスに出かけることもあります。工場見学もまた利用者の楽しみのひとつになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使う楽しみを味わって頂けるように外出時に買い物やご自身で好物な物を食べて頂く等積極的に行っております。また、事業所に移動パン屋さんが来るのでご自身で財布から支払いをして頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や友人から手紙に対して手紙を書く事の支援や電話する事の支援を行っております。サービス中に不安になった場合等ご家族に電話して頂く環境を整えております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご夫婦やお友達が一緒に泊まれる様にパーティションの部屋があります。また各部屋には窓があり明るい居室となっております。ホールからは畑や木が見え四季を感じて頂ける環境となっております。	玄関ホール、リビングは明るく開放的で広々としています。照明は全てLEDを使用しています。建物の四方には緑があしらわれ、高台に建つ立地ゆえ眺望もよく、快適な空間となっております。壁には季節感あふれた手作りの作品も掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際に椅子を配置するなど庭を楽しんで頂けるスペースや玄関付近で椅子に座り読書をする方等、ご利用者様が独りになれるスペースの確保等思い思いに過ごせるような支援を行っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段ご自宅で利用している物や枕、寝具に関しては皆さん持ち込ませております。写真や本を持ち込み部屋で楽しんでいる方もいられます。	扉状のパーティションで区切られた居室もあり、つなげて友人や夫婦と一緒に宿泊することも可能です。日頃の愛用品、写真、化粧品等を持参する利用者もいます。各居室は全て外に面して窓があり、明るい作りの部屋となっております。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	事業所内はバリアフリーとなっておりますので安心して歩行練習等が行える環境となっております。トイレもできるだけご自身で行って頂いたので手すり等を設けご利用者様に自分でやる事を促しております。		

(別紙4(2))

事業所名 こもればの郷

目標達成計画

作成日: 平成25年 12月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		再アセスメントの循環を全職員に「見える化」を図り全員でケアプランを作成参加・実施する。	アセスメント作成までの行程・重要性を今一度全職員理解する。	アセスメントができるまでの行程・重要性を研修会実施を行い職員全員が理解する。	3ヶ月
2		再アセスメントの循環を全職員に「見える化」を図り全員でケアプランを作成参加・実施する。	計画→実施→評価→再アセスメントの循環が日常的に行えるようにする。	職員で何グループかチーム分けを行いケアプランの評価を1ヶ月毎ごとに行う。チーム毎にリーダーを設け1ヶ月毎に交代し行う。日常的に個々がケアプラン作成参加・実施に積極的に参加できるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。